

06

平成30年3月

岩手大学教職大学院 NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻

問合先: 岩手大学教育学部 TEL.020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp URL http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

平成29年度 教育実践研究発表会 開催

1月26日

岩手大学教職大学院における2年間の学びの集大成、「教育実践研究報告書」の発表会が開かれました。第一期生として学卒院生9名、現職院生8名が北桐ホールの壇上に上がりました。

来賓としてお越しいただいた、岩手県立総合教育センター所長の、藤岡宏章様をはじめ、連携協力校等の先生方には、足をお運びいただきました。ありがとうございました。

また、会の進行も務める後輩院生や教職大学院への進学を目指そうとする学部学生、本学教員が見守る中、堂々の発表と質疑応答が交わされました。

そのラインナップの一部は次の通りです。

融合。実践。理論のと

●学校マネジメント力開発プログラムの大越淳さん(現職)

「小・中学校における主幹教諭の役割の現状と課題」

●授業力開発プログラムの佐藤志菜さん(学卒)

「高等学校家庭科保険領域におけるOPPシートを用いた子どもも観変容の分析」

●子ども支援プログラムの光成芳さん(学卒)

「学校生活における自己の価値観と周囲に対する評価とのずれが中学生の適応に与える影響」

●特別支援教育力開発プログラムの坪谷有也さん(現職)

「児童生徒一人一人が主体性を發揮する授業づくり」

17名の院生とその研究成果が、平成30年度岩手県内外の学校で発揮されます。

学卒総合実習の状況

総合実習での授業実践の様子



学卒院生(M1) 横澤修作

岩手大学教育学部附属幼稚園、附属特別支援学校、附属中学校、附属小学校での総合実習を終えました。本実習では、私が専門とする小学校以外の校種も体験しました。授業力の向上はもちろん、校種間の接続や学校組織マネジメントの実際、子ども支援の在り方など、多様な学びを得ることができました。教職大学院の講義で得た知識を、実際の現場の様子と照らし合わせながら実習を行うとともに、院生同士で学びを共有したり、意見の交流を行ったりすることで、理論と実践の融合を図ることができたと感じています。次年度からスタートする専門実習も、総合実習での学びを生かし、実りの多い実習となるよう努めていきたいと思います。



この冊子はグリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。

院生懇談会 開催

2月23日

【現職院生(M1)】千葉邦彦

大学院の教員と院生が、教職大学院でよりよい学習を進めていくための改善点等について意見交流を行いました。「理論と実践の融合」という教職大学院のねらいを達成するために、カリキュラム等に関して、教員と院生がそれぞれの立場の垣根を越えて議論できたことは大きな収穫でした。今回出された改善点を踏まえ、教職大学院での学びが、さらに充実したものになっていくことを期待します。

【学卒院生(M2)】立花佳帆

2月23日に行われた第2回院生懇談会では、講義や実習の在り方等について意見を交流しました。院生と大学院の教員が共に大学院を作っているのだということを実感しました。また、M2の院生から2年間を踏まえたアドバイスや意見をいただき、残りの1年の見通しを持つことができました。これからも教職大学院がより充実したものになるよう、意見交流の場を大切にしていきたいです。

教員メッセージ

特命教授(実務家教員) 高橋和夫



平成28年4月に入学した第1期生はまもなく修了式を迎えます。平成27年度から開設準備に携わった者として感慨深いものがあります。設置審への申請書を基に、授業や実習、リフレクションの進め方等についてワーキンググループで議論を重ね準備を進めてきました。先が見えず十分な準備ができないところもありましたが、院生の真摯な態度と意欲に救われたとありがたく思っています。学卒院生と現職院生がお互いに刺激し合いながら学修に励み、充実した実り多い2年間だったと思います。教職大学院は、高度専門職業人としての教員の養成を目指していますが、学卒院生も現職院生も間違いなく、それぞれが目指す目標を充分に達成できたものだと思います。第1期生の皆様、大変お疲れ様でした。そして、修了、誠におめでとうございます。

